

IV 学識経験者の意見 (総合所見)

○ 松尾 七重 氏

平成20年度に千葉市教育委員会が執行した事業について、主に学校教育に関わる「施策1 千葉市の学校で学んでよかったと思える学校づくり」について、先ず、これを構成する基本事業別に所見を述べ、最後に総括的な所見を述べることにする。

「学力が身につく仕組みづくり」については、「千葉市学校教育推進計画」を策定し、本市学校教育の中・長期的な目標や方向性を示したことは高く評価できる。また、千葉市学力状況調査及び全国学力・学習状況調査の結果等から、本市における児童生徒の学力の定着状況は良好であることを読み取ることができる。さらに、少人数指導教員配置事業や学習支援員配置事業等の取り組みは学校側からの高い評価を受けており、その効果が得られたと判断することができる。今後は「千葉市学校教育推進計画」における具体的な事業の確実な実施や、未整備の小学校における校内LANの整備を含め、教育環境整備のより一層の充実を期待したい。

「教育・悩み相談の充実」については、教育相談指導教室や教育相談等の学校不適応対策を強化していることが窺えるが、その一方で、不登校児童生徒の割合はやや増加傾向にある。その原因を突き止め、現在実施されている対策がその問題解決に相応しいものであるかどうかを吟味する必要がある。

『豊かな心』の育成については、中学校の職場体験や小学校の農山村留学等の体験活動の推進、ふれあいパスポートの配布等、「人間尊重の教育」への取り組みが充実していると判断することができる。また、読書教育の推進のための学校図書館指導員の配置等により、読書量の増加という効果を読み取ることができる。その一方で、平成20年度にはいじめの解消率が急激に減少している。いじめの発生件数の変化等についても併せて調査を行い、いじめ解消率の減少の原因を早急に突き止め、基本事業1-2の取り組みを勘案し、解消率を増加させるための事務事業を新設する必要がある。

「丈夫な体と健康づくり」については、新体力テストの結果によれば、本市の児童生徒の体力・運動能力は良好な状況であることが窺える。また、指導者派遣事業により、運動部活動の充実を図ることで、学校現場から高い評価を得ている。さらに、給食費未納入問題への具体的な対策の結果、未納率が減少していることから、その効果が得られたと判断することができる。今後は心身ともに健やかに成長していく丈夫な体づくりのための環境整備拡充が期待される。

「安全で快適な学校づくり」については、教育環境整備は概ね計画通りに実施され、また、学校の安全・防犯対策としての学校セーフティウォッチャーによる活動や防犯カメラの設置等が実施されている。特に、防犯カメラ設置により、不審者侵入回数が大幅に減少し、その効果が窺える。さらに、学校施設の老朽化対策、耐震補強等、安全で快適な学校生活を送るための教育環境の整備が実施されているが、都市の財政事情もあり、必ずしも十分に達成されているとは言えない。耐震補強の効果は見えにくい面があるが、安全第一主義を考え、耐震補強の重要度についての理解が得られるように広報活動を実施し、また、空き教室や特別教室等の利用を考え、仮設校舎建設費を減らす工夫をし、早急な環境整備を行う必要がある。

「特色ある学校づくり」については、「特色ある学校づくり経費」の活用により、各学校では教育課程を工夫し、特色ある教育活動が展開されている。また、高等学校では独自の研究開発に取り組み、成果を上げていることが窺える。今後は各学校の特色を広くアピールする工夫に努めるとともに、学校評価等の中で、特色ある学校づくり事業についての効果測定に関するシステムづくりが必要であろう。

「教職員資質の向上」については、教職員の資質・力量向上のため、各種研修や各学校での研究が実施されている。特に、教職員ヘルシーシステムは教職員のメンタルヘルス増進のために必要不可欠な取り組みであると判断できる。今後は各種研修についての効果測定システムを構築・実施し、その結果を基に、研修の内容についての工夫改善を図っていく必要がある。さらに、団塊世代教職員の大量退職等への対応として予想される教員の新規採用数の増加に伴い、初任者や若手教員の能力・資質向上のための研修を強化させることが重要課題である。

「家庭・地域との積極的な連携」については、学校教育の推進は学校のみならず、家庭や地域社会が連携し行っていかなければならないことから、そのための基盤づくりにあたる「学校・家庭・地域連携まちづくり推進事業」は重要であると考えられる。本事業への参加者は年々増加していることが窺えるが、本事業が青少年の育成に益々の効果をもたらすよう、その内容のより一層の充実に努めることを期待したい。

以上、平成20年度に千葉市教育委員会が執行した「施策1 千葉市の学校で学んでよかったと思える学校づくり」に関わる事業については概ね良好な成果を得ているものと考えられるが、市民の大きな期待に応えるためには、事業実施に連関した点検・評価を明確に位置づけ、説明責任を果たすとともに、教育施策の充実につなげていく仕組みをつくるのが重要である。そのためには、学校の教職員による評価のシステムづくりや市民の声を聞くシステムづくり等が課題となるだろう。

「わかる授業・楽しい教室・夢広がる学校づくり」を目指しつつ、学校・家庭・地域社会の連携により、「心の教育」の充実、教育環境や安全対策の整備、青少年の健全育成等に対する長期的な改革の企画・推進を切に望むものである。

○ 頼本 維樹 氏

昨年度に続いて、千葉市教育委員会の関係施策の事務事業のうち、「施策2 青少年を健全に育成する環境づくり」、「施策3 心のふれあう生涯学習の推進」及び「施策4 スポーツ・レクリエーション活動の振興・促進」について点検・評価に関わってきたが、全体的な所見について述べる。

事業の点検・評価は、目標を設定し、その目標の実現に向けた施策を実施し、それを評価してさらに施策を充実させていくことが、一連のサイクルとして行われていくことに意義がある。そういう意味で、今回の点検・評価にあたっては、平成19年度に実施された点検・評価活動が、20年度の施策にどう反映されたかについても留意した。

千葉市においては、青少年健全育成及び生涯学習について、それぞれ千葉市青少年育成行動計画と第3次生涯学習推進計画に基づいて、計画的に施策が進められている。

昨年度に続いて、千葉市教育委員会による青少年健全育成、生涯学習及びスポーツの分野の施策と基本事業について事業点検・評価を行ったが、平成20年度に実施された関連基本事業について、全体として概ね実施状況は良好であると評価できる。

また、先進的事業（例 少年自然の家PFI事業や科学館、図書館システムなど）と、地味ではあっても着実な実施が必要な施策（例 地域活動、補導活動）がバランスよく組み合わせられて実施されている。

さらに、今年度については、重点的に取り組む事業を定め、当該施策について貢献度評価を導入したことは、よりメリハリのついた効率的な施策の実施に資する試みとして評価できる。

昨今の財政事情の厳しさを反映して、平成19年度に比べて20年度の予算が減少している施策も少なくないが、効率的に事業を実施する工夫や努力がなされ、成果をあげている。

青少年育成や生涯学習の分野は、施策の実施により青少年や学習者がどのように変容したかを把握することが難しい分野であるが、意識調査や事業への参加者・登録者を把握することで成果を測ることは可能である。この点について、生涯学習における人材の確保の成果指標が改善されて、ボランティア登録者数が順調に伸びていることが示され、市民の学びの輪が広がってきていることが明らかになったことや、地域活動の活発化が参加した子どもの数値の増加で示されたことなど、成果が具体的な数字で示されたことは評価できる。

千葉市の青少年健全育成、生涯学習及びスポーツに関わる施策については、全国のモデルになりうる事業も含めて様々な取組が行われている。今後は千葉市民への広報をより積極的に行い、千葉市教育委員会が実施している施策の目的や特徴等について、分かりやすく説明して一層の理解が得られるようになることを望む。また、他の自治体などに対しても、千葉市の生涯学習、青少年育成の取り組みについて、一層の情報発信をお願いしたい。

